タイヤパンク応急補修キット

取扱説明書

パンク補修作業前に必ずこの説明書をよくお読み下さい。

はじめに

<u>次のような場合は、応急補修キットでの補修はできません。</u>

本品ご購入店又はロードサービスへご連絡若しくはスペアタイヤ交換による処置が必要です。

〇6mm以上の大きな穴が開いている場合
〇タイヤ側面の穴や切り傷、刺し傷がパンク原因の場合
〇タイヤとホイールのリム部分が外れてしまっている場合
〇パンク発生後の走行によりタイヤに摩擦磨耗や凹凸が生じている場合
〇ホイールのリムに大きな傷や割れ、へこみがある場合
〇タイヤがチューブタイプの場合

<u>本品で補修可能なパンク</u>

□直径約6mmまでの異物貫通によるトレッド（接地）面のパンク

これだけはご理解下さい！

本キットでのパンク補修後に、高速走行すると注入した補修剤がホイールバランスを狂わせる原因となり、ハンドルにブレや振動が発生することが有ります。
補修後は時速80km/h以下で尚且つ安全を確保できるスピードで走行し、できるだけ速やかに本キットご購入店又はお近くの修理可能なお店で本修理を行ってください。
また、本修理の際は、注入した補修剤は抜き取りが必要です。

補修剤／抜き取り方法

予防剤の抜き取りは、専用の機材並びに工具が必要です。
必ず、ご購入店又は修理店で抜き取りの依頼をして抜き取って下さい。

①タイヤとホイールを外します。
②注入した補修剤を拭き取るか多量の水で洗い流します。
③水分を十分取り除いでからタイヤ及びホイールを組み付けます。
④本修理した後、パンク箇所からエアー漏れが無いか確認してください。

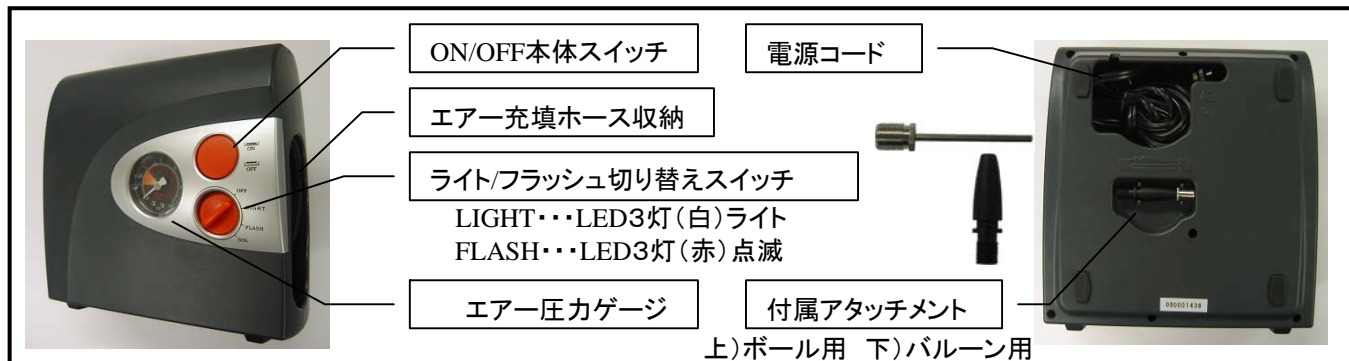
注意

●補修剤を飲用しないで下さい。誤飲したときは、大量の水を飲み、直ちに医師の診断を受けてください。
●補修剤が目に入ったり皮膚についたときは、すぐに多量の水で洗い流し、それでも異常を感じる場合は、医師の診断を受けてください。衣服に付着するとシミの原因になります。
●応急補修キットは幼児の手の届かぬよう注意して保管してください。

タイヤパンク応急補修キット

キット内容

※付属パーツ、各キットのデザイン、型式については、予告無く変更する場合があります。

エアーコンプレッサー

注意

- ●コンプレッサーは連続で10分以上の稼動を避け、定期的に冷ましてからご使用下さい。
- ●降雨時、ご使用になる場合は、雨がかからないように注意してご使用下さい。また砂地など埃の多い場所で作業する場合も下に敷き物をする等して下さい。故障の原因になります。
- ●コンプレッサーは自動車用12V専用です。他の電源ではご使用にならないで下さい。
- ●コンプレッサーを分解、改造しないで下さい。また大きな衝撃を与えぬようご注意下さい。
- ●コンプレッサー使用後、シガーソケット（電源）側の本体プラグが熱くなることがあります。直ぐにプラグを抜くときは火傷に注意してください。
- ●コンプレッサーは作動中、振動と作動音がありますが、異常ではありません。
- ●コンプレッサーを作動させるときはできるだけエンジンをかけた状態でご使用下さい。

タイヤパンク応急補修キット

作業手順説明

応急補修を行うときは、車輌を広い安全な場所に駐車して行ってください。

1 応急補修が可能な程度のパンクか確認して下さい。

1 タイヤ側面のパンク、切り傷、バースト、リムとタイヤの外れている状態では、応急補修できません。

2 パンクの発生原因と思われる釘などの異物が刺さっている箇所が確認できる場合は、その位置のタイヤ側面に付属のマーカーチョークで目印をしておきます。
※パンク箇所がわからない場合は作業④から進めてください。

2 後々の本修理の際、パンク箇所がわかり易くなります。
また、タイヤに刺さった釘などは抜き取らず応急補修して下さい。
ただし、走行を妨げたり、他の車輌部分に悪影響を及ぼす可能性がある物が原因の場合は、付属のラジオペンチで怪我をしないよう十分に注意して、取り除いて下さい。

3 目印をした位置（穴の位置）が地面側（真下）の位置にくるまで少しづつ車輌を動かしてください。
※車輌の移動が危険と思われる場合は、そのまま作業④へ進んでください。

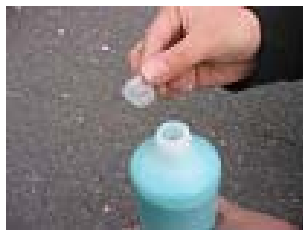
3 このときハンドルはできるだけ真っ直にして慎重に車を動かしてください。

4 バルブキャップを外してバルブコア回しでバルブコアを外します。バルブコアを外すときは、コア回しを左に回します。

4 バルブコアを外すとき、タイヤの中に空気圧が残っているとバルブコアが飛び出す恐れがあります。コア回しは少しづつ回してゆっくり抜いてください。

タイヤパンク応急補修キット

作業手順説明

5 補修剤のキャップを根元から開け、中蓋を外したらもう一度キャップを取り付けて、先端キャップを外してください。
付属の注入ノズルをキャップ先端にしっかり差し込みます。

6 注入ノズルをタイヤのバルブにしっかり差し込み、車輌に応じた注入量を注入して下さい。
　注入するときは、ボトルは地面に対して逆さまになるように両手で持ち、何回も圧迫する要領で押し込んで下さい。

補修剤注入量目安
軽自動車･･･ボトルの半分/1輪
普通乗用車･･･ボトル一本全量/1輪

6 補修剤がこぼれたり、付着した場合は、拭き取るか、水で洗い流してください。

7 補修剤の注入が終了したら、付属の注入ステッカーを1枚、補修剤を注入したホイールのバルブ付近に貼り付けて下さい。

8 バルブコア回しで（右回し）バルブコアをしっかり取り付けます。

8 バルブコアを紛失してしまった場合は付属の予備バルブコアを取り付けて下さい。

タイヤパンク応急補修キット

作業手順説明

9 コンプレッサーのエアー充填ホースの先端プラグをタイヤのバルブにねじ込み、電源コード先端のプラグをシガーライターのソケットに差し込んだら、エンジンをかけて下さい。
※車輌エンジンをかけ難い場合は、キーをACCにして下さい。

9 エンジンがかかっていない状態ではコンプレッサーのエアー充填能力が若干弱くなります。また、バッテリーのコンディションによっては、バッテリーが上がってしまう場合もあります。
できるだけエンジンをかけて作動させて下さい。

10 コンプレッサーの本体スイッチを押し（ON）、エアー圧力ゲージで空気圧を確認しながら、指定空気圧になるまで空気を充填します。

10 2～3分経過してもエアー圧力ゲージの針が全く上がらない場合はパンク穴以外にひどい空気漏れ箇所がある可能性が考えられます。応急補修キットによる補修を断念し、スペアタイヤへの交換をするか、キット購入店またはロードサービスなどに救援を依頼してください。
尚、この際、費用が発生する場合はお客様のご負担になります。

11 指定空気圧までエアー圧力ゲージの針が上がったらスイッチをOFFにしてコンプレッサーを止めてプラグを外して下さい。

乗用車規定空気圧目安
軽自動車・・・180kPa～200kPa 普通乗用車・・・200kPa～240kPa 正しい規定空気圧は車輌マニュアルまたはドア内側のタイヤ圧シールで確認して下さい。

12 安全を確認しながら車輌をゆっくりと移動させ、タイヤを数回回転させて下さい。

12 作業②③でパンク箇所がわからなかった場合も、この作業により、タイヤ内を補修剤が広がりますので、穴の位置に補修剤が行き渡った時点で許容範囲のパンク原因の場合空気漏れが止まります。

タイヤパンク応急補修キット

作業手順説明

13 その後、もう一度タイヤを確認し、空気漏れが発生している様子（穴部からプクプクと空気が出ている／「シュー」と空気漏れの音がする。）が無い場合は、安全を確保できる低速（時速80km/h以下）走行で5分～10分走行した後、再び安全な広い場所に駐車して下さい。

14 補修効果が十分に得られているか確認する為、もう一度エアーコンプレッサーのプラグを接続し、エアー圧力ゲージでエアー圧が維持できているか確認して下さい。

〇エアー圧力ゲージの針が150kPa以上を指す時
・・・補修効果が十分得られています。引き続き時速80km/h以下の安全を確保できる速度で走行可能です。念のため、定期的にエアー圧を確認しながら、お気をつけてご走行下さい。

〇エアー圧力ゲージの針が150kPa以下を指す時
・・・タイヤの損傷がひどく、補修剤での空気漏れ止めが十分になされていない可能性があります。
継続走行は絶対にやめ、キット購入店、又はロードサービスの救援を依頼して下さい。

14 150kPa以下を指した場合に限り、バルブコアの不十分な取り付けによる空気漏れも考えられますので、念のためバルブキャップを外し、バルブコアからの空気漏れが無いか確認をしてみて下さい。
キット購入店又はロードサービスの救援を受けて発生する費用については、お客様のご負担となります。

応急補修終了後は、できるだけ速やかに本修理を行い、補修剤を抜き取って下さい。